

## 令和5年度 第7回 伊賀市多文化共生推進プラン委員会 議事概要

日 時：令和6年2月27日(火) 午前10時00分～12時00分

場 所：伊賀市役所本庁2階 202・203 会議室

出席者：和田委員、井上委員、西岡委員、清水委員、田中委員、尾登委員、峰委員、森永委員、吹上委員、山本委員、八幡委員、信田委員、キタ委員、TON委員、桃地委員

内 容：

### 1. あいさつ

○会議資料の確認

○自己紹介

### 2. 委員長、副委員長の選任について【資料 No.1】

次 長 それでは、事項書の2の「委員長及び副委員長の選出について」に入ります。  
伊賀市多文化共生推進プラン委員会設置条例第5条第1項で「委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によってこれを定める」こととなっています。  
選出方法について、いかがいたしましょうか。

委 員 事務局案の方でいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。皆さん、事務局にご提案いただいてよろしいでしょうか。

次 長 ありがとうございます。  
事務局の案ということで、お声をいただきましたので、事務局から提案させていただきます。  
それでは、前回に引き続き、オチャンテ委員に委員長を、西岡委員に副委員長をお願いしたいと思います。お二人には事前にご承諾を得ております。  
いかがでしょうか。

委 員 異議なし

次 長 ありがとうございます。異議なしというお声をいただきましたので、前回に引き続きオチャンテ委員を委員長、西岡委員を副委員長とさせていただきます。  
オチャンテ委員、西岡委員よろしく願いいたします。  
それでは、会議の議長につきまして、委員会条例第6条第1項で、「委員長が議長となる」と規定していますが、本日はオチャンテ委員が欠席されていますので、会議の進行を副委員長をお願いしたいと存じます。  
西岡副委員長、よろしく願いいたします。

副委員長 ただいま副委員長に選任されました、伊賀市国際交流協会の西岡でございます。よろしく願いします。また、本日、オチャンテ委員長さんがですね、欠

席ということで、私副委員長が進行させていただくことになりました。そういうことでございますので、これから進めたいというふうに思っております。それでは議事に入りたいと思います。オチャンテ委員長様のようにスムーズな進行ができるか、少し不安ですけれども、議事の円滑な進行にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

副委員長 よろしいですか。

それでは、事項書の3、多文化共生推進プラン事業進捗状況について事務局から説明をお願いいたします。

### 3. 多文化共生推進プラン令和5年度事業進捗状況について【資料No.2】

○資料No.2の説明（事務局）

〈質 疑〉

副委員長 各種団体からの説明はですね、一旦ここで後回しにさせていただいて、先に、今、事務局より、行政の進捗状況について説明いただきましたので、委員の皆様からご意見ご質問をいただいた後、各種団体からの説明を、お願いしたいと思いますので、とりあえずのところを事務局からの説明に対しまして、ご意見、ご質問ございませんか。

委 員 伝丸の和田です。進捗確認の全体について意見があるんですが、それについては、一番最後にお話しさせていただくとして、今説明していただいた中のアンケートの現状値というところで、まだ取られているということでしょうか。外国人住民アンケートです、これ、また別で説明あるのでしょうか。

事務局 そうですね。アンケート結果についてはまた後程説明をさせていただくんですけども、アンケートの結果についてはもうまとまったものです。これ、実績です。アンケート結果については後程確認いただきます。

副委員長 他にございませんか。はい、どうぞ。

委 員 感想を言えてるかわからないです。自治協のこととは全く関係ないんですけど、成果指標実績表というところの一番最後のところで、差別を受けたことがある人の割合というところ。目標値ってあるんですけど、単純にちょっと違和感を感じたんですけど。これ15%とか、こういう目標はどっから出てくるのか、これ書かなくてもええやんとか単純に思ったりするんですけど。

事務局 ごめんなさい、初めての委員さんには説明が必要だったのかなと思うんですけども。もともと、これはアンケート結果から、目標を立てておまして、現状値を見ていただいたらわかるんですけど、2022年のアンケート結果では、現状値21%の方がやっぱり差別を受けている、というふうなアップがあったんです。第一次の計画っていうのは26年度が目標達成っていうところで、やっぱりゼロ。っていうのはね、なかなか難しい数字ではあると思うんですけども、ゼロにしていくっていうところで目標立てていく中では、やはり徐々に減らしていきたいとい

うことで、15%という目標値を定めたという経緯がありますので、ゼロに越したことはないんですけども、そんなにすぐにはあっていうところで、26年度をゼロにということを目標値にしています。

副委員長 他にございませんか。

なければ、各団体等からの説明に入りたいと思います。またそのあと、ご意見ご質問をちょうだいしたいと思います。それでは、名簿の順番でお願いしたいと思うんですけども、伝丸さんの方から順番にいきたいと思います。

委員 進捗確認の件なんですけどちょっと回答、非常に多忙だということもあってチェックさせていただいてないのもあるんですけど、進捗確認の集計というか、このことに疑問というか。全体で何事業があって、行政が何事業があって、やっぱり民間とかが伝丸とか、いろんな会社さんとか、地域とかで幾らっていうのは書いてはいただいているんですけど、これがオール伊賀市、伊賀市のすべて、すべてっていうか多くの事業を反映しているわけではないと思うんですね。で、集計して悪いことはないと思うんですけど、集計してそれを進捗を確認して、それがやりますって言ったことがやれて、それを知ることが大事だと思うんですけど、それと、この伊賀市のオール伊賀市で取り組むというところが、ちょっと繋がっていないように思うんです。私どもの事業は、私たちは多文化共生に取り組むNPOなので、これを仕事、自分たちの使命、やるべきこととしてやってるんですけど、この伊賀市の計画に合わせたところに入れ込むとなるとちょっと、全く同じ組み立てをしていないので難しいです。例えば生活相談で受けたことを、伴走支援といって一緒に市役所行ったり、一緒にいろんなところに行って、解決をする。例えば弁護士さんところにも一緒に行くっていうふうなことを仕事として、私たちの活動として、してるんですけど、そうすると、1つの事業、うちの中で1つの事業なんですけども、再掲って言って、あっちにも関係してるし、高齢者問題にも関係してるし、子育てにも関係してるし、就労にも関係してるということで、どこに入れていいかわからないみたいなのもあって、一番最初に、この年度の初めに書いてくださいって言われたときに一応書いた、大体、何となく書いたんですけど、なのでこれが何事業で、その進捗を確認して達成度がどうっていうところが、ちょっとどうなのかな。あかんわけでは、よくないわけではないけれどそれで全体の把握ができるのかなっていうのがちょっとあります。

なので、伝丸の方からはたくさん事業、バラバラ書いたんですけど、できた部分もあるし、実施できなかったものもあるんですけども、どう説明したらいいのかわかりませんが、8割方はいろんなことを一生懸命やってきましたが、外国の方にいろんな情報を伝えるというところはちょっとうまく、十二分にはできてなかったかなっていうところと、あとは子供たちへの支援、あとは学習支援、個別の相談に対応するのは、今年度もかなり重点的にやってきたかなと、大きな感想になってしまって申し訳ないんですけどっていうところです。あとやさしい日本語も、うちが単独で開催するというよりは、いろんなところから、住民自治協さんからご依頼

を受けたりとか、或いは防災リーダーさんからご依頼を受けたりとか、そういう形でいくつか開催させていただきました。あと青山さんの方でも、ひだまり文庫さんの方でさせていただいたりとかいうところで、啓発的なこととやさしい日本語については、一定数できたかなと思っています。全体的なその数のカウントの仕方とか、それから確認の仕方については後程もう一言皆さんにお聞きできればと思います。とりあえず、うちからは以上です。

委員 伊賀日本語の会です。伊賀日本語の会は1か所だけあるんですけども9ページになります。伊賀日本語の会の30周年記念事業講演会としまして、12月10日に広げよう、やさしい日本語ということですね、すいません日時書いてないですけども、開催いたしました。

多文化共生課の課長さん、福岡さんはじめ、いろんな方に参加していただきまして、やさしい日本語の吉開さんをお呼びして、講演会とそれからパネルディスカッションを行いました。で、参加人数なんですけれども、一般からっていうか、申し込みがあった数が51名です。あと、スタッフとかもろもろ入れて、大体80名ですね、イベント通しての参加者が80名となっております。そのときにですね、今日お配りしました、この「はじめようやさしい日本語」というパンフレットを、これは伊賀市国際交流協会さんのお金で、伊賀日本語の会が編集して作らせていただきました。これも配布をしました。参加してくださった方、約80名の方には配っております。以上です。

委員 伊賀市社会福祉協議会です。うちの方では特に冒頭事務局さんからもお話いただきましたが、防災リーダーの育成と、それに関連する事業を主に中心にさせていただきました。

前年度は14名で今年度17名の防災リーダーの養成の方が終了しております、またその事業の中に関連してですね、今年度に関しては、先ほど伝丸さんが言ってくだった、やさしい日本語の講座ですね、こちらを先週させていただきました、参加者は27名ということで、周知啓発をさせていただいたのが、民生委員さんとか自治協の関係の方とか、あとはうちの災害ボランティアセンターの運営に関わる方であったりとか、災害が起こったときに、そういった運営に関わる可能性が高い方を中心に啓発の方させていただきました。

非常にすごく関心を持っていただいて、こういった講座を継続してしていただきたいというふうな声もお聞きしておりますので、また次年度、地域福祉活動支援事業ですかね、助成をいただいてやってる事業なんですけれども、次年度もですね、この講座の方を一応申請させていただいた内容の中には入れさしてもらってますので、審査の方が通ればまたそちらの方を伝丸様にお世話になりながら、継続していきたいというふうに思っております。はい。簡単ですが、以上です。

委員 上野商工会議所です。13ページのところなんですけれども、外国人を雇用している会員企業に情報発信を行う、というちょっと記載はしてないんですけども、毎月ですね、商工会議所約1500の会員事業所がありまして、そちらの方に毎月会議所ニ

ユースという形で、事業主さんに送らせていただいているというところです。大きな外国人を雇用されてる企業さんにはですね、会社の中のガバナンスでいろんなことをされてると思うんですけど、やっぱり小規模事業者というのは圧倒的に多い。そういった方々がですね、相談に来られる方も何名かいらっしゃいます。そういう感じで対応させていただいています。

それから、続いて14ページです。すいません。こちらちょっと記載してなくて申し訳なかったですけども、確定申告、今ちょうどですね、所得税の確定申告の時期で多くの方が相談に来られてるんですけど、確定申告であったり、コロナを経てですね、国とか県とか市の支援金がたくさんあって、これもう相談にたくさん来られている状況です。外国人の方がどれぐらい割合あるかというところも多くはないんですけども、飲食業をここでされたいってそんな方もたくさんいらっしゃるの、対応を数件させていただいているところです。効果で書いていただいたんですけども、わりかし在住期間が長い方がどうもやっぱり多くてですね、日本語そこそこできて、ちゃんとこう聞いていただいたんかなというところですし、できない方は多分ちょっといろいろお世話になってですね、通訳の方と一緒にこられて、対応させていただいたという、そういう事例がありますので、以上、報告させていただきます。エクセディです。

委員

取り組み主体というところでエクセディと書いてあるところは、まず、1つ目の、1ページのどれもが安全に安心して暮らせる地域づくりのところで、防災に関係するところです。避難訓練、安否確認メールと書いてありますけども、基本的にはこれ、国籍問わずに、全従業員を守るという観点でやっていますので、誰もが漏れないようにということで、しています。技能実習生の方に関してなんですけども、このメールが配信されて、それで自分の安否を返すというふうな形をしてるんですけども、会社から携帯電話を配布して、それを持ってやっていただいているというふうにしております。

基本的に伊賀市さんから等々の情報につきましては、食堂等で掲示して、誰もが見れるというふうな形をとっておりますが、やさしい日本語、情報紙いがなんかは、各言語で作られていただいておりますので、それをすべて掲示して、もしくは、取ってもらえるような形をとっております。9ページの方で国籍を越えた交流による地域づくり、行事的なものへの参加を促すというところに関しては、これも基本的には全ての従業員の方に、予定が合えば行ってもらえるということで、地元でしたらくノ一のホームゲームこれの斡旋をしたり、労働組合の方でいろんなイベントを企画していただいておりますので、そこにも同じように参加できるというふうな形をとって、基本的には間口を広げて、誰もが参加していただけるような状況にはしております。簡単ですけども以上になります。

委員

伊賀市商工会です。

特に掲載をさせていただいてないんですけど、先ほど、上野商工会議所さんが、言われましたように、会員750名なんですけど、情報発信の方を毎月させていただ

ております。

あとですね、創業スクールを毎年させていただいております、外国人の方も創業されたいという希望者の方がいらっしゃることもありますので、創業に関しての支援を、補助金のことであつたりとか、あと創業に関する税務的なことであつたりとかは、支援をさせていただいたりしています。以上です。

副委員長 国際交流協会でございますが、バラバラとありますが、概ね 80%ぐらいはできたんじゃないかなという風に思っております。1つ、特にですね今年は国際交流フェスタとか、ヒューマンフェスタで、防災関係のいろんなPRをやりました。その中にも、先ほども話がありましたように、市の方から、それから女性消防団、それから外国人防災リーダーの方に来ていただいて、いろんなPRをしていただいたという結果がございます。

それとですね、今年はまだちょっと力を入れたのが、やさしい日本語の普及でございます。この3月の17日の最後に、研修、外国人さんと日本人と一緒にお茶を飲みながらしゃべるっていう催しを、この17日にします。日本人の方が少し足りませんので、よければ、まだ募集しておりますので、参加していただきたいと思えます。

情報紙ですけども、やさしい日本語、6か国語、毎月1回いろんな自治会さんであるとか、企業さんであるとかいろんな団体へ送っております。3月にちょうどこの情報紙を送るときにアンケートを計画しております。今準備を進めております。それをもとに、また次年度良い方法で進めていきたいというふうに思っております。

皆さん方、もうほとんど発言されたと同じようなことを進めております。次年度もやさしい日本語をもうちょっと広めていきたいなあと思っております。やさしい日本語につきましては、今年、自治会さんの方を重点に、講師を派遣させていただくということで、計画したんですけども、1ヶ所にとどまったっていうのが、現状でございますので、そのPRのやり方をちょっと考えたいなと、そういうふうに思っています。今計画しているところでございます。以上です。

副委員長 それでは、各団体さんの方から進捗状況について報告がありましたが、これについてご意見、ご質問ございませんか。

なければ、全体を通してご意見ご質問ございませんか。

よろしいですか。

委員 先ほども少し申し上げましたが、この伊賀市の多文化共生推進プランは、進捗をどう確認するかで、一応この委員会の中を中心についていうのは書かれてはいるんですが、委員会に参加しているものが、こんなやりますよ、やれましたよっていうだけで、その進捗確認っていうことに、イコールではないかなと思うんですね。今それしか測れない、簡単に測れるとしたら委員さんに聞いて、入れ込んでもらってっていうやり方だと思うんですけど。何か、それで、伊賀市のオール伊賀市でやっている、この進捗のプランも図れるのかなっていうのが、私は違和感が、何か変だな

って思うところがあるんですけど、皆さんは別に、それは私の個人の意見なんですけど、これでいいのか他にもう少しやり方があったらなと思うんですけども、もしご意見があったら、例えばうちは、こういうのが必要だと思ってこういう事業をやりました。それはいいことだと思うんですが、それをみんなでこう、ここはある程度例えば自治協さんでも、新居さんは来てくださってるけど東部さん西部さんとか小田さんとか来てくれてないわけですよ。で、例えばそれ、各地でやられてることもあるし、そういうのは、反映あまりされないような形になってしまいますよね。それでやってないとするのか、或いは別のやり方でもう少し何か報告を取るとかいうことができないのか、それもお負担になるのかそういうのをこの場で少し意見がもらえたらと思うんですが、いかがでしょうか。

副委員長 今和田委員の方から意見がありましたけども、他の委員さんどうでございますか。  
委員 はい。これは自治協に限ってということになるんですけど、すいません。自治協に限ってそれも僕の2年の経験の中で、こうなるかなあという、そういうつもりで発言させていただきましても、地域によって外国籍の方が非常に多いところと、かなり少ない、現状も知りませんが、多いところはね、多文化さんの間もあって、ちょっと連絡を取れるルートもできました。地域の実情等々考えますと、やっぱりとりあえず東高倉でブラジルの方がとても多いんですけども、あそこでいろいろネットワークができてくると、祭りちょっとやってみようか、呼んでみようか、連絡網もどうやって作ってみようか、作り変えようかとか、なんかこう、何かしら始まります。それをまた口コミです、聞かれたり、言うたり、そうしていくと、じわっとですけども、広がりがあって、今日ちょっと見させてもらったんで、空欄とか、「え」と思ったんですけども、何かそういうので、口コミとか、人対人で広がっていくことですかね、結果としてネットワークが広がっていくっていうか、そういうのが、自治協としては望ましいかなとこんなふうに思っています。

副委員長 事務局から  
事務局 田中委員の方からもご意見いただきましたけれども、地域によって、外国人さんがたくさん住んでいる地域もありますし、企業さんでも同じように、外国人の住民の方をたくさん雇用されている企業もあれば、ほとんどいないっていう企業もあってくれるので、もちろん、私たちもいろんな方の声は聞きたいんですけども、この場ですべての地域ですとか、企業さんの声を拾うっていうのはやっぱり難しいので、外国人さんの雇用が多い企業さんですとか、地域の代表の方に、委員の方をお願いして、この委員会の方はさせていただいています。確かに委員会に参加いただいている団体さんとか、企業さんだけに計画を出していただいて、実績を報告してもらっているやり方は、ちょっと今回初めてだったので、これからまた検討していく必要はあるかなと思うんですけども、事務局としては一部でも、こういう取り組みをしていただいているっていうことを把握できるだけでも、すごく進歩があったなというふうに感じています。やっぱり行政だけでは支援が届かないところがたくさんありますので、こういうことをされているっていうのを把握できたことで、窓口で住

民の方から相談あったときにこういうところで相談したらいいよとか、こういうの地域でもやってくれてるから、参加してみたらどうか、そういったつなぐ役割が、すごくできやすくなったかなというふうに感じています。和田委員がおっしゃったみたいに本当いろんなところでやっていただけるように、もちろんお願いも今後周知もさせていただきますし、把握については、例えば、課長の説明の中でもありましたけど、商工労働課でやっている企業訪問のアンケートを利用するか、このプランも今第1期ですので、また2年後にはまた見直しをするときに、アンケートも実施しますので、その時にまた事業所さんですとか、地域単位でのアンケートも実施はさせていただく予定をしていますので、毎年毎年、すべての地域とか企業さんへのアンケートっていうのは難しいかと思うんですけども、アンケートについてはまたプランの見直しの段階で、させてもらうっていうので、ご了承いただけたらなと思います。

以上です。

委員 ご紹介のときに申し上げましたように、もうこれ第7回の会議なんですけれども、私初めてですし、また、グループのシニアということで、少し田中委員さんと似ている部分もあるかなと思うんです。といいますのは、やっぱり例えば、生涯学習支援、そのアンケートとは直接関係ないようで、ちょっとお願いにもなるんです。私初めて参加させていただくので。生涯学習支援員さんも研修していただいている、私たち町協で、何かプランをするときに、個々の、自分たちもしたいこととともに、生涯学習支援員さんからも提案があります。ただその町々によって、人数が違います。それが、今、最初のご挨拶にも、重点施策ってありましたのでね、やっぱり生涯学習支援員さんに、その研修で使われてると思いますけれども、その何でやさしい日本語をするかとかその実態、自分の地域には接する機会がなくても、伊賀市全体では、6000人、46か国っていうことで、その自分が接してなくても、その人たちが生活をしてきている。だからみんなで多文化ですからどの国もだし、それから、どなたにとっても住みよいまちっていうところでは、まちづくり、共通してるところがあると思うんです。なので生涯学習支援員さんの講座のときには、そういうその町々によって町協によって、その割合は違いますけれども、伊賀市で重点施策として取り組んでいるっていうことや、ちょうど、広報の、私スポーツの関係で近くの甲賀のすぐそこ隣町なので、そしたら1月号で、みんなでつくろう多文化共生のまちということで特集してくれてまして、もうご存じの方もいらっしゃると思います。ですので、伊賀市も広報も月に1度ですし、流す内容大変多いと思います。ですので、そういう国際交流協会さんのその啓発っていう、協会さんや社協さんの便りとかに、参加しようと思ってでもできない方もいらっしゃるから、写真でちょっとこんな取り組んでいますとかっていうのを、みんなに知らしていくっていう活動も、私が見てないだけかもしれませんが、少しずつ裾野を広げていただきたいなっていう思いを持っているので、どうしても生涯学習支援員さんと町協って割と2年前から密接な関係にありますので、その計画案のときに、少しでもそうい

うやさしい日本語とか、或いは私個人的にはこのイベントでも、もちろん子供たちが何か子育て支援センターで多文化な遊びをしたとか、そういうのもありますけど、今だったら私やさしい日本語をしたときに、ちょっと後でみんなができるポッチャとか、そういうみんなで一緒に楽しむ、っていう何か交流、大きなイベントじゃなくて、そういう一緒に楽しめるイベントもできるかなと思ってるのでここには直接関係ないですけどもそういうのもあったりだと思うのと、あと、もう専門的なことはもちろんここにいらっしゃる今までから関わってくださる皆さんが中心になり、私はもう語学も全然できませんので、この通訳アプリとかハザードンは入れました。とりあえず、なので、そういう小さなできることから進めてるので、こういうシニアでなんかちょっとサポート、さっきも人が足りないっていうところ、出てましたのでね、どういう、何か支援をこの事業の中で入れてもらえるかなっていうのを、また、アドバイスいただきたいなと思っています。直接関係ないことですけどもすみません。

委員

今の山本さんの意見もなんですけども、ここで今日紹介されたものはわかるんですけども、先ほど東高倉の自治協さんがおっしゃったように見えてないものっていっぱいあると思うんですよ。でもその中でも、いい取り組みってやっぱりあると思うんで、その辺そういうのが、広報であったりとかで紹介される時もありますけれども、広報で紹介されるのって、写真だけだったりするし中身が見えなかったりもするので、広報って考えたら、こんなイベントありますよ、はあっても人権とかで、コラボとかもあったりもするんですけども、この場だけでもいいですし、広報、広く伊賀市民の人達に知らせるというのも大事かわかんないんですけども、何かいい取り組みとかをもっともっとPRして欲しいなっていうのを感じました。やっぱり私たちって、いろんな方から聞かれるんですよ。多文化共生で、自治協でどんなことしたらいいやろうとか、個人でどんなことしたらいいんやろうというふうなことを聞かれたときに、こんな取り組みやってもらったよ、こんな取り組みしますよとか、ここではこういうのもできますよっていうのを、案内できたりもしたいなと思うので、まだまだ今回のここでは見えてない部分もあるし、私とかが関わっているところだとはわかるんですけども、全部には私達も関われないので、もっともっと知りたいなと思うことがいっぱいある、見えないところ、自治協さんがやっていることとかも見えないですし、自分の地区ぐらいでも、参加してなかったらわからないことがいっぱいあると思うので、なんらかの形でいろんなところに広めていくっていうのは大事かなあと感じました。そうしたらいろんなことが見えてきて、やってる感が今のここではどうしてもやってる感が見えないし、できてんのかなあっていうふうに思うし、それが、ただやってる感が見ただけでは駄目なんですけれども、実感として進んでるなと思えるっていうのが一番大事なあと思います。なので、後でアンケートの結果もありますけれども、アンケートとか数字だけではわからない、実感してやっぱり変わってきたねっていうのをいかに理解できるかっていうのが、数字ではなくって大事なんじゃないかなあというふう

に感じてます。

副委員長 私からよろしいでしょうか。司会者からなんですけども。

確かに、これだけで、これでるわけですよ、外へ。どっかに載せるとか

委員 会議資料とかで、でる

事務局 そうですね、審議会の資料ですのでホームページアップは、必ずします。はい。

副委員長 それはやっぱり抜けてて、先ほどから話がある抜けてる部分っていうのは確かにあると思うんですけど、こんな私どもはしてるのにとかっていうのもあると思うんです。今年んところはですね、もうこれからっていうのも難しいと思うんです。来年、少し考えていくということで、どうでございますか。事務局でまた来年いい案作っていただいて、今年のところは、今から、これを変えていくっていうのも、無理があると思うので、どうですか。

事務局 そうですね、今回初めてのプランの事業計画ですので、一旦始めたということで、私たち本当に、これを出していただくことで、こんなこともしていただいているんだっていうことをすごく見えました。私たちだけでは、いろんなところで多文化共生の事業が、進んでいるっていうことがよくわかったこと、また、やれてないことも見えて参りました。それだけでは、確かに測り切れないうところはあるんですけれども、やらないより、やった方が絶対いいんです。まず、第一歩としてこれをさせていただいたということで、今年度についてはこれを、元に、来年度の取り組みをまず進めていくっていうことでさせていただけたらと思うんです。指針の頃からお世話になってるメンバーの皆さん、プラス、今回委員の改正によって、東高倉の地域であるとか、公募委員さんも新たに、皆さん、新しく来ていただきました、いろんな意見交換、また始まっていくのかなと思いますので、ここから、いろんなところに広がっていくっていう方向で話は進んでいくのかなと思うのでここではすべては、できないと思うんですけれども、この繋がり、広めていくここが先頭だ、いろんなところに持って帰って広めていくっていうところが大事なのかなと思いますので、すべてだとは、決して思っておりません。私たち以外のところでも、取り組みが進んでるということも聞かせていただいておりますので、もう私たちは、ただ、リーダーとして、情報交換であたりしていけたらなと思っておりますので、また次年度からいろんな検討を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局 すいません。皆さん方のご意見を聞かしていただいて、その通りだなと思っております。オール伊賀市でやっていく以上、今見えてんのは点と点やと思うんです。どういうふうに繋がっていくか繋げていくかというのが、この会で、意見として出していただきたいなと思っております。例えば、単独ですべて書いてあるんですけれども、商工会、上野商工会議所、当然行政と繋がっているのが、商工労働課ですよ。だからそこら辺と一緒にの形の中で、今後取り組みを広げていくと。今ほんまに単独でやってるもので、その会の問題しかないと思うんですよ。書き方の工夫も必要かもわかりませんが、どのような形で繋がっていくか、行政としてどのよ

うにつなげていくか。今、新居さんだけですよ、自治協で来ていただいているのは新居さんから各自治協議会につなげていけるかと言うたら、今の現状、役員さんであつたら、つないでいただけたらと思うんですけども。今現状、今、今の委員さんは、それぞれやっていたら、こういうふうな取り組みをしていただけたら、みんなに知ってもらおうという形の中で、この計画書は出てきたと思っております。今後、皆さん方でどのようにつなげていくか、どういうふうなルートとかあるのかどうか考えながら、この計画も含めて書き直すか、今はもう直せへんけども、来年度に向けてどのような報告書にしていくんか、みんなにわかっていくんか、最終段階は点が線にでするので、メインになるのが大勢いらっしゃると思いますので、そこに向けての取り組みをしていただけたらありがたいなと思います。

副委員長 今事務局から回答がありましたけども、皆様方、どう思われますか。だから今年のところは、と条件が。空白というのはちょっとやっぱりどういうふうな書き方。わかりますけど。関係ないですけど。

委員 今言ってもらってもるのは、自治協の部分ですか。空白の部分。

副委員長 違います。

委員 それは違いますか。

副委員長 空白の部分が、あるなという、これを

事務局 そうですね空白の部分はもう一度ちょっと確認もとりながら、せめてこの計画書の完成度を高めて、まず、もう一度確認をってもらうような形を、させていただけたらなと思っておりますので、1度確認をし、空白の部分については確認をして、また、委員さんの方にも周知をさせていただきます。

委員 すいません。はい。

空白もそうなんですけど、行ズレもないですか。

2ページ目の、自分のところになるんですけど真ん中の方にあるんですけど。実施事業の進捗状況の欄が、私書いた文章ちゃうなと思って。ずれてるのか、違うところへ、移動したのかよくわかりませんが

事務局 真ん中、2ページの真ん中の方

委員 そうです、そうですね。

事務局 ちょっと、ずれてる。

委員 ずれてるかな。

事務局 ずれてますね。確認して修正させていただきます。

委員 もしそれ、載るといふ話であれば、それ書いてないよね。こういう状況では困るので。それも、確認の方をお願いします。

副委員長 こちらのところは、一応こういう形で、事務局提案がありましたので、今日承認でよろしいですか。

委員 いいですか。はい。すいません。いろいろ意見いただけてるんですけど、まあとにかくこれだけが答えではないので、どのように今後考えていくかということが大事だと思って、今部長さんおっしゃっていただいたように、たとえば商工会と会議所

であればですね、会員企業とそれぞれ繋がってるわけですので、例えばそこを通じた、外国人雇用してる雇用者のアンケートっていうのは可能やと思うんですよ。だから、伊賀市がやってるのは基本的には住民自治なので、住民を対象にしたアンケートっていうことやけども、違う視点のアンケートもできるん違うかなって思います。それはいわゆるその点を増やしてって線につなげていくとかそういうことで多分繋がっていくんやろなっていうふうに思います。ですので、今はできないですけど、そういうことをやろうと思ったら可能やと思いますので。ただ、それは企業さんの協力を得なあかんで、そこは十分にやり方とかまた相談されたかなと思いますけど。それぞれの団体です、いろんな広報誌も出されたりしてると思うんで、例えば、私どもであればですね折り込み入れることは可能ですので、毎月出ますのでそんなも活用いただいて、また増やしていただいたらなという風に思います。

事務局 ありがとうございます。そういう形で広報がやっぱり必要やなと感じております。例えば、人権政策課の男女共同参画係っていうのがあるんですけど、そこでは独自にネットワーク会議の中で、自分たちのキラキラというの作って、これは全戸配布ではないんですけど、回覧という形の中で、自分たちでやってること、思い等々を、市民の皆さんに知っていただくという取り組みをしておりますので、そこら辺のところも、皆さんの情報は確かにあると思います。取り組みもあると思うんですが、情報集めてどういうふうに発信していくか、どういうふうに配っていただけるか、配っていただいているやつを、市民の方にどのようにして周知していくか、そのことも1つの大事なところ、オール伊賀市の取り組みやと思いますのでそのところ、来年度、予算に反映できるかどうかわかりませんが、ちょっとこちらの方で検討させていただいて多文化共生という形の中で、発信できたらいいなと思いますのでまたその時、予算取り等々できた次第には皆さん方にはご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。

副委員長 委員さん方からいろんなご意見いただきました。次年度に向けてということでございますので、提案通り、承認させていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは3については、承認をさせていただきます。

#### 4. 2023 外国人住民アンケート結果について【資料 No. 3】【資料 No. 4】

○資料 No. 3、No. 4 の説明（事務局）

#### 5. その他

○生活ガイドブックについて（事務局）

副委員長 この件に関して何かご意見、ご提案ありましたら。ございませんか。ないようであれば、これで本日の議事は終了とさせていただきます。皆様方、ご協力ありがとうございました。それでは事務局にお戻しいたします。

次 長 西岡副委員長さん、ありがとうございました。委員の皆様には長時間にわたり、活

発なご意見、提言等いただき、ありがとうございました。これをもちまして、第7回伊賀市多文化共生推進プラン委員会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

一 同 ありがとうございました。